

国語学習の記憶と感情の結びつき

—学習者の記憶に残る国語科授業に関する調査 2023 年版から—

竜田 徹

1 問題設定

米国の小学校教師で現職教員向上サポーターを務めるキーンは、著書『理解するってどういうこと？』の中で、同じく小学校教師であり、自身の仕事に多大な影響を与えた親友のブルース・モーガンの取り組みを紹介したうえで、次のように述べている。

でも、子どもたちには、もう一人のモーガン先生に出会ってほしいのです。子どもたちみんなに、彼のような情熱を持ち、人間の感情の意味を明確にして説明することを恐れない教師に触れてほしいのです。ブルースの教室で子どもたちが飛躍的に成長するのは、つまり学んだことを記憶して、それをどこかで応用できるようになるのは、いつもというわけにいかなくとも、自分たちが学んだ概念に感情的な関連づけをひんばんに行っているからなのです。私は、ブルースの教え方を私たちみんなが真似すべきだと提案しているわけではありません。彼のスタイルは彼固有のものですから。しかし、学ぶときに自分の感じることにオープンになり、自分が感じたことを思い切り子どもたちに表現することが大切だと言っているのです。子どもたちのやりとりに自分自身をもっと解放していくことを提案しているのです。論争的になっているいろいろな問題に子どもたちと一緒に取り組んで、子どもたちの考えに影響を与えようとするのではなくて、情熱的な好奇心をもった人物のモデルを示すことを提案しているのです。自分が子どもたちに対して正直であり、率直であれと言っているのです。子どもたちは、私たちが感情をオブラートにくるんだり、穏やかにしたり、当たり障りのないものにしたり、受け入れられやすくしてしまうことなど望んでいないのです。私たちに求められているのは、人間が理解するとき感情がどのような役割を果たしているのかを教えることなのです。(キーン, 2014, pp. 342-343)

学んだことを長く記憶することができるのは、学んだ概念に「感情」が結びつけられているからだと言っている。これは具体的にどういうことだろうか。学習者の記憶に残る国語科授業に関しては、竜田 (2014) や竜田 (2016) において、国語学習の記憶の特徴やその意義が明らかにされている。しかし、国語学習の記憶と感情の関連性については十分に扱われていない。これを問うことは、国語科授業における感情の働きを明らかにし、子どもたちが成長できる国語科授業づくりへの指針を得ることにつながるという点で重要なことである。

もう一つの点として、モーガン先生に注目したい。キーンはモーガン先生のことを、「情熱を持ち、人間の感情の意味を明確にして説明することを恐れない教師」だと捉えている。では、モーガン先生はどのように教えているのだろうか。もちろん、モーガン先生のスタイルを真似れば記憶に残る授業ができるわけではない。「ブルースの教え方を私たちみんなが真似すべきだと提案しているわけではありません」とキーンが述べていることは重要である。しかし、学んだ概念の記憶と感情が関連しているのであれば、「人間が理解するとき感情がどのような役割を果たしているのかを教えること」は、教師としてぜひ意識したい、一種の教育内容だと捉えてよいだろう。その教え方の一つのモデルを、モーガン先生の姿から抽出することには意味があると考えられる。

教員養成の文脈においては、教員志望の高校生や大学生が、小学校・中学校・高校時代の学習経験を振り返ったりめざしたい教師像を考えたりする場面が少なくない。その活動をより深まりのあるものにし、生徒・学生が自分の考えを深めたり広げたりできるようにするためには、何を共有すればよいのか。その典型的な教師像の一つを、モーガン先生の姿から明らかにできるのではないか。

2 研究の目的と方法

以上の問題設定に基づき、国語学習の記憶は感情とどのように結びついているのか、国語学習の記憶をつくり出す教師にはどのような特性がみられるかを明らかにすることを本研究の目的とする。

この目的を達成するために、本研究では次の手順で検討を進めたい。

- ① 学びの記憶に関係づけられる感情の具体例と、そうした学びを効果的につくり出すための教師の姿を明らかにするために、キーン（2014）に基づき、モーガン先生の教師像や授業における取り組みを検討する（検討1）。
- ② ①で明らかにしたことと、国語学習の記憶の具体的内容とを比較検討するために、「学習者の記憶に残る国語科授業」に関するアンケート調査の分析を行う（検討2）。
- ③ ①②の検討・分析結果に基づき、総合的な考察を行う。

3 検討1：モーガン先生とその授業の成果

キーンは、「自分の人生のなかで、もっとも深く、記憶している学習経験を思い出すと、それらはさまざま感情に彩られています。私は、そうした感情を伴う経験についてどれだけ子どもたちに話しているか、そして理解に感情が果たしている大きな役割についてどのように話しているかと考えることがあります」（pp. 339-340）と言う。そして感情が理解に及ぼす影響について研究するきっかけとなったのが、モーガンの教室であったと述べる。以下では、キーンが捉えたモーガン先生の教師像と、モーガン先生の授業がどのような感情を伴うものであったかについて、それぞれ検討したい。

3.1 モーガン先生の教師像

キーンはモーガン先生について、「彼はいろいろな点で優れた力量をそなえた教師ですが、特に注目すべきは、感情が人間の理解の中身や、世界の学び方や、自分の書き方に、どういうふうに影響を及ぼすかということ言葉を表現できる才能をもっていることです」と述べている。そうしたモーガンの「才能」は、教室においてどのように発揮されているのだろうか。キーンは、教師としてのモーガンのすがたを、五つのキーワードで捉えている。すなわち、「容赦しない」「正直」「情熱的で好奇心旺盛」「ルネサンス人」「その情熱は学校外の彼の暮らしのなかでも変わらない」の五つである。それぞれのキーワードが実際の教室のふるまいとしてどのように現れるのか、本文中の記述に基づいて要約し、表1にまとめた（次頁）。ここから、モーガンの教師像をいくつかの要素にまとめることができる。

まず、**しつこい教師**である……（あ）。これは、学習者の率直で正直な感情を引き出すために必要になる。モーガン先生には、子どもたちをどこまでも自分自身の感情に向き合わせようとする粘り強さと覚悟が備わっているといえる。「わかりません」という発言や表面的な回答であきらめるのではなく、より深いところにある思考や感情を子どもたちに求めていく覚悟が見て取れる。それは「あふれんばかりのユーモアと子どもたちへの無条件の愛」があつてこそ効果的に成立する行為である。

二つめは、**正直な教師**である……（い）。授業の中で、間違った時には間違つたと認めて謝り、おもしろいと感じたときには笑い、悲しく感じたときには泣くというように、自分の行為や感情に正面か

ら向き合おうとする姿が、モーガン先生を特徴づけているといえる。

三つめは、**好奇心旺盛な教師**である……（う）。モーガン先生は、自分自身の趣味や興味関心をもとに、いろいろなことに目を向け、いろいろなことを不思議に思っている。身の回りをよく観察し、多くの疑問をもつことによって、対象への理解を掘り下げているようにみえる。これは教師像というよりは人間像といったほうがよいかもしれない。

そしてもう一つは、**公私混合する教師**であるⁱ……（え）。モーガン先生は、私的な情熱の対象と公的な教室での仕事を、いい意味でミックスしている。自分の興味関心の対象を教室に持ち込み、発見したことや不思議に思ったことを子どもたちや周囲の人たちに話したり、質問を投げかけたりすることを厭わない。クリティカルなコメントも含めて、学校内外で自分が感じたことを他者に伝えようとしており、状況に応じて学習と関連づけようとしていることもわかる。

このように見てくると、（あ）～（え）の教師像はなにも特殊なものではなく、授業に熱心に打ち込んでいる多くの教師の姿そのものといえるかもしれない。しかし、モーガンの場合には、これらのスタイルが顕著に、個性的な仕方で現れているのであろう。そしてより重要なことは、モーガンが教育活動に果たす感情の役割を自覚的・意識的に活用していることであり、教室に感情を積極的に持ち込んで教えるモーガン先生の姿に価値を見出したキーンが、その姿をこのように書き留めたことであろう。ここで抽出された教師像（あ）～（え）には、感情の働きを授業にいかそうとする教師の姿が、断片的ではあるかもしれないが、描き出されているといえるのではないか。

【表1】モーガンの教師像を表すキーワードと教室でのふるまい（キーン，2014，pp.339-342を要約）

キーワード	キーワードの説明	教室でのふるまいや発言の例
○容赦しない	・思春期直前 ⁱⁱ の子どもたちの不安や優柔不断さに対して果敢に挑戦する。 ・子どもたちが自分自身やお互いに対して正直になれるように励ます。	・教師の問いかけに対して子どもが表面的な回答をしたり「わかりません」と答えたりした場合、それは本人の中に大切な感情に直面するのを避けようとする気持ちがあるのではないかと推測する。
○正直	・自分自身の行動に責任を持ち、自分の感情に正直に向き合うことが大切だということをモデルで示す。	・授業のなかで間違いを犯したら、それを認め、子どもたちにも間違ったときは同じようにしてほしいと話す。 ・子どもが本を読んでいるとき、そばに行き、いっしょに笑ったり泣いたりし、経験や感情を共有する。
○情熱的で好奇心旺盛	・何にでも目を向け、あらゆることを不思議に思う。 ・目を向けたことや不思議に思うことについて、かなり長く話す。	・「彼女ほどの作家が、こんなおそまつなフレーズを使うなんて信じられないね。……」 ・「……もしきみが書き手だったら、この彼女の感情についてもっと正直になるにはどうしてた？」
○ルネサンス人	・自分自身の興味関心の対象を教室に持ち込む（建築、都市計画、アウトドア、環境、政治、社会的な公正さ）。	・「今朝のすばらしい日の出を見たかい？ 雲が、紫からピンクに、オレンジに、それから黄色にチラチラ光って変わっていくのを見たかい？ その素晴らしい光景を見られるように早起きした子はこのクラスにいたかな？ おっ、きみは見たのか！ 見たことを作家ノートに書いた？ ……」
○その情熱は学校の彼の暮らしのなかでも変わらない	・散歩やアウトドアなどの暮らしの中でも、あとで共有することができそうなたくさんの観察や、たくさんの質問をする。	・「あそこでミッドセンチュリーモダンを作っているのに気づいた？」 ・「あの正面のデザインをどう思う？ なぜ周りの建物と調和するように考えなかったんだろうね？」

3. 2 モーガン先生の授業の成果

モーガン先生とその授業に学んだ子どもたちは、その授業で何を感じ、どのように成長したのか。キーンは、モーガンの授業の成果について次のように述べている。

ブルースのすることを説明するのは容易なことではありませんが、その効果を測定することは一層難しいでしょう。彼のもたらす影響を測る本当の指標は、自分を信じるができなかった子どもたちが自信を持てるようになったり、感情を包み隠すことに慣れっこになった子どもたちが、進んで感じていこうとするところにあります。しかし、その結果は学力にも関わります。本のなかの登場人物や矛盾葛藤に対する共感を強めたり、書くときにうまく自分の声を入れ込んだり、いろいろな考えに情熱をもったり、世界に対して好奇心をもったり、現状を厳しく問う質問をしたり、本について話すための語彙を広げたり深めたり、新しい学びの課題に直面するときに低い自尊心に打ち勝つ能力を身につけたり、といった具合にです。(キーン, 2014, p. 342. 下線は引用者)

モーガン先生の授業の成果として子どもたちにもたらされたもののうち、感情にとくに深く関わるものに、下線を付したⁱⁱⁱ。順に言い換えると、(ア) **自信をもつ**、(イ) **自分がいだけ感情に向き合い、味わい、表出する**、(ウ) **共感する**、(エ) **好奇心をもつ**、そして(オ) **挑戦・応用しようとする**、と捉えることができるだろう。このうち、モーガン先生のスタイルがもたらす学習成果を直接示すものとしては、(ア)と(イ)がある。なお、(ウ)～(オ)は「学力にも関わる」要素の例として挙げられているが、感情との関わりも深いといえる。

ここでの検討をまとめると、授業で学んだことを長く深く鮮やかに記憶しているというとき、それらの学びには、(ア)～(オ)のような感情が結びついていることが多いと考えられる。なお、(ア)～(オ)の感情は、モーガン先生の教室から抽出される代表例である。教室・教師の個性に応じた別の要素があることも十分に考えられるだろう。

4 検討2：学習者の記憶に残る国語科授業のアンケート調査結果の分析

4.1 分析の方法

学びの記憶に関係づけられる感情の具体例と、そうした学びを効果的に作り出すための教師像について、モーガン先生の教室を手がかりに検討してきた。それでは、具体的な国語学習の記憶において、感情や教師像との結びつきはどのようになっているのだろうか。

これを検討するために、2013年度以降継続的に実施している「学習者の記憶に残る国語科授業」に関するアンケート調査の、2023年度版を用いて分析を行いたい。調査は、小学校教員養成課程の大学生を対象として、学部2年生向けの講義のなかで行った(2023年度実施、計102名回答)。2023年度調査は、資料1に示す質問事項ⁱⁱⁱについて、webフォームを用いて行った。講義終了後に各自の端末でアクセスしてもらい記入してもらった。この記入内容に基づき、次の分析1と分析2を行った。

【資料1】アンケート調査の質問事項

- 1 これまでに受けてきた国語の授業や、取り組んできた国語の学習のなかで、あなたが今でも覚えていること、思い出せること、印象に残っていることはありますか。
 - 2 その授業(学習)に取り組んだ学年を教えてください。はっきり思い出せない場合は、だいたいで、記入しなくてもかまいません。複数の思い出があるときは、もっとも印象深い思い出についてお答えください。
 - 3 その授業(学習)について覚えていることは、どんなことですか。自由に記入してください。はっきり思い出せない場合は、断片的な語句のみでも、記入しなくてもかまいません。
 - 4 その授業(学習)のことを覚えているのはなぜだと思いますか。自由に記入してください。答えなくてもかまいません。
 - 5 その授業・学習に取り組んだ都道府県(国・地域)を教えてください。答えなくてもかまいません。
 - 6 あなたの生まれた年・月を教えてください。答えなくてもかまいません。
- ※ 回答欄は、1は選択式、2・5・6は短い自由記述式、3・4は長めの自由記述式とした。

まず分析1として、2013・2014年度調査の際と同様の方法を用いて、質問3及び質問4の回答内容を精査した^{iv}。回答内容を精査する際には、3については報告された授業単位で、4については一文単位で、それぞれ分析を加えた。分析の結果は、資料2および資料3としてまとめた。

次に分析2として、資料2と資料3の中から、感情をいかして教える教師の姿が述べられている回答と、学びと感情が深いレベルで関連づけられている回答を抽出し、検討を加えた。次の節では、二つの分析の結果をまとめていく。

*

【資料2】 これまでに受けてきた国語科授業のなかで覚えていること

<凡例>	一連番号 [分類記号・教材名] 記載内容 (対応する資料3の一連番号)
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 原則として回答者の表記のママ。ただし、[] 内は竜田による補記。資料3の一連番号の記載がないものは、回答がなかったもの。 ・ 教科書教材のタイトルが記載されている場合や、記述内容からタイトルを特定できた教材名は、併記した。
1.	[A ア・おおきなかぶ] おおきなかぶという教材で、グループに分かれて劇をした。自分たちで道具を作って国語の授業中に練習し、上級生に劇を披露した。(82)
2.	[A ア・くじらぐも] くじらぐもの劇をしたこと。
3.	[A ア・ごんぎつね] ごんぎつねの授業で最後の「ごん、お前だったのか」のセリフを気持ちを込めて1人ずつ音読したこと。
4.	[A ア・すいせんのラッパ] 「すいせんのラッパ」という文章を感情に合わせて読み方を変えて音読をした。(60)
5.	[A アイオ・くじらぐも] 国語の時間に話の内容を確認して、学習発表会で『くじらぐも』の音読劇を学年全体で行った。
6.	[A アオ・スイミー] スイミーの授業が印象的でした。何度も音読をし、レオ・レオニの他の作品を読みました。(1)(11)(13)(61)
7.	[A アオ] その授業ではジャンケンで負けた班が物語の劇をやり、先生が心情を問いかけていた。(34)
8.	[A アオ] 音読をたくさんして、主人公の気持ちを考える活動を班で行なった。(16)
9.	[A アオ] 物語を習って、授業の最後にグループに別れて自分たちが残っている場面を劇にしてみんなの前で発表した。(20)
10.	[A アオ] 教科書を何回も読んで友達とその時の主人公の気持ち等を考えていた。(62)
11.	[A イ・お手紙] グループに分かれてがまがえるくんの劇をした。(21)
12.	[A イ・かさこじぞう] かさこじぞうを習った時に、かさこじぞうのオペレッタを2年生全員でしました。(63)
13.	[A イ・スイミー] スイミーの劇をしたのを鮮明に覚えている。(35)
14.	[A イ・ちいちゃんのかげおくり] ちいちゃんのかげおくりを勉強していたときに、実際にグラウンドに出てみんなでかげおくりをやったこと。(54)
15.	[A イ・ちいちゃんのかげおくり] ちいちゃんのかげおくりを読み、実際に運動場に出て、かげおくりをしたこと。(75)
16.	[A イ・ちいちゃんのかげおくり] ちいちゃんのかげおくり。[資料3の記入内容に基づき分類] (22)
17.	[A イ・ちいちゃんのかげおくり] 授業の一環で屋上に出て、実際にかげおくりをやってみたのが非常に印象に残っている。(76)
18.	[A イ・ちいちゃんのかげおくり] 「ちいちゃんのかげおくり」の最後の授業で、皆でグラウンドに出てかげおくりをしたこと。(23)
19.	[A イ・ちいちゃんのかげおくり] ちいちゃんのかげおくりを習った時、実際に校庭でみんなでかげおくりをやってみた。(24)
20.	[A イ・ちいちゃんのかげおくり] ちいちゃんのかげおくりを学習したときに実際にやってみた気がする。(25)
21.	[A イ・注文の多い料理店] 注文の多い料理店の劇をクラスみんなでした。(36)
22.	[A イ・羅生門] 羅生門。[資料3の記入内容に基づき分類] (17)
23.	[A イ] 班で場面ごとに分かれて、劇を行った。(26)
24.	[A イ] 物語を分かりやすく、先生自身が一人で劇をしてくれた。(93)
25.	[A イオ・おおきなかぶ] 大きなかぶの学習後に、いくつかのグループに分けて、グループごとに大きなかぶの劇を行った。(27)
26.	[A イカ・スイミー] スイミーで劇をした。スイミーがみんなをまとめて大きな魚に立ち向かう姿が印象的だった。
27.	[A イカ・ちいちゃんのかげおくり] ちいちゃんのかげおくりが1番印象に残っています。戦争関係の内容だった。実際にみんなで外に出て影送りをしたことが印象に残っている。(55)
28.	[A ウ・くじらぐも] 「くじらぐも」という作品をよく覚えています。実際に先生が大きなくじらぐもが描かれた絵を準備してくださって、そこに各々が思うがままに自分が書いた文を貼っていった授業をよく覚えてます。(28)
29.	[A ウ・注文の多い料理店] 注文の多い料理店で、最後に画用紙に絵や文を書いてリーフレットを作って、人に説明した。(37)
30.	[A ウ・はなのみち] 「はなのみち」という作品で、物語の結末の後をグループで作って絵に書いてみようという活動をした。(83)

31. [A ウ・羅生門]「羅生門」の授業で自分のイメージする老婆の絵を描いた。(56)(100)
32. [A ウ・羅生門] 羅生門を読みその続きを生徒一人一人がオリジナルで作成してクラスのみんで回して読んで批評会をした。(30)(84)(85)
33. [A ウ] 物語の続きを自分たちで考えてそれについての紙芝居を作り、みんなの前で発表するという授業でした。(32)
34. [A ウ] 脇山ひでやす先生〔脇山英靖先生。当時、佐賀大学教育学部附属小学校教諭〕の授業だったのですが、一つの物語に一つのパンフレットを作って、それぞれの解釈や絵を描いたりしながら、その物語についてのパンフレットを作り上げる授業が印象的でした。同じ物語のはずなのに、一人一人違った解釈や個性が出ていてとても面白かったです。また、物に残すというのもとてもよかったです。(18)
35. [A ウオ・夢十夜] 夢十夜を読んで感想を話し合った後オリジナルの夢〇夜を作り読みあったり、五人一組でリレー式に一つの作品を作り上げた。
36. [A エ・羅生門] 下人と婆さんのしたことについて裁判をクラスのみんでしたこと。(57)(58)
37. [A オ・ころ] 夏目漱石の『ころ』を読んだ。何故、K が自殺をしたのかというのを、情景描写や先生と K のやり取り、先生からの視線の K などから考察した。「精神的に向上心のないものは馬鹿だ。」というセリフを強く覚えている。
38. [A オ・ころ] 夏目漱石の「ころ」の授業で、一つの結末のために多くの伏線が用意されていて、登場人物の心情や状況が明確に記述されていなくても、読み取ることが出来るんだと実感したから。(38)
39. [A オ・ごんぎつね] ごんぎつね。ごんがどんな気持ちで魚を届けたのか。(4)
40. [A オ・羅生門] 羅生門を読んで下人の思考回路の転換について考えた。(という建前で定期試験の対策をした。)(86)
41. [A オ・羅生門] 羅生門の授業だったのですが、最初見た時長くて難しいと感じていたけれど、先生の話が面白かったからか授業が全部終わった後、自分で本を買って読むくらいハマりました。(94)
42. [A オ・羅生門] 羅生門の授業で、主人公が最後のシーンの後どうなったのか考察した。(5)
43. [A オカ・ずうと、ずうと、大すきだよ] ズーとずうとだいすきだよの物語の授業で「ずーとずうとだいすきだよ」という言葉を誰に伝えたいかを話しあった。中々恥ずかしくて言にくいけど、大事なことは言葉にして伝えなければいけないとまとめて先生が話した。(39)(40)
44. [A オカ・スーホの白い馬] 確か「スーホの白い馬」の授業だったと思います。白馬が血だらけで死ぬ、というのが衝撃的でした。(白→赤という色の変化も印象に残った。)あと先生が馬頭琴に近いものを作って見せてくれたのも印象的でした。(3)
45. [A オカ・山月記] 先生が、山月記時代の中国における政治形態を話されたことで、その時代の中国に対する理解が深まった。また、文章中の表現に好いて百時で要約する〔文章中の表現に基づいて 100 字で要約する、か〕といった課題を挟むことで、自分なりの文章にまとめることができさらに理解が深まった。(2)
46. [A カ・お手紙]「ふたりはともだち」という物語がとても印象に残っています。がまくんが手紙をもらえなくて悲しんでいるのを見たかえるくんががまくんに手紙を書いてあげるところが優しいと感じました。(77)
47. [A カ・ごんぎつね] ごんぎつねの最後が切なくて小学生ながら、うるうるした思い出がある。
48. [A カ・少年の日の思い出] 少年が最後蝶を潰したシーンが印象的で、なかなかそれについて共感できなかったことをおぼえている。
49. [A カ・スイミー] スイミー。最後がハッピーエンドだった。(6)
50. [A カ・高瀬舟] 高瀬舟の授業。(14)
51. [A カ・やまなし] やまなしという作品でクラムボンという筆者が作り出した言葉のようなものが出てきたこと。(15)
52. [A カ・山月記] 山月記の授業を行った。話自体はとても面白かった。学びとしては、自身の才能に溺れていた李儼がその愚かさ気づいたことが現代の社会に通ずるものが多くあるなど感じた。(7)
53. [A カ・山月記] 山月記を読んで、下手なプライドを持たずに切磋琢磨できる仲間を作ることが大切だと考えたことを覚えています。(80)
54. [A キ・お手紙] かえるが主人公の単元があって、その単元のテストの名前の欄に「かえる」と書いた友達がいる、そのことを後日先生が「〇〇さんは感情移入して名前にかえると書いていましたね！」とみんなの前で楽しそうに話していたので、自分もその後のテストで名前の欄に「かえる」とかいたら、そのまた後日、テストの回答用紙を見た親に「親が付けた大事な名前前で遊ぶな」とこっぴどく叱られた。
55. [A キ・スイミー、ちいちゃんのかげおくり] スイミーやちいちゃんのかげおくりは印象に残っている。
56. [A キ・モチモチの木] モチモチの樹。(8)
57. [A キ・羅生門] 羅生門を使った授業だった。(9)
58. [A キ・羅生門] 羅生門。(10)
59. [A キ・檸檬] 授業の内容をおぼえてるわけじゃないです！(95)
60. [B オ・イースター島にはなぜ森林がないのか] イースター島のモアイの文章で、段落ごとに題名をつけるという授業だった。(41)
61. [B・カ] 評論文でしたが、朝ごはんと 1 日の活動の関連性についての話だったと思う。そこでオレンジジュースと牛乳を混ぜて飲む「オレンジミルク」〔東京書籍『新しい国語四下』平成 23 年版「目的に合わせて書こう」に掲載された「オレンジ牛にゅう」のことか〕が紹介されていて、私も真似してオレンジミルクを作っていた記憶がある。(87)(88)
62. [C ア・竹取物語、平家物語] 竹取物語や平家物語などの昔の文の暗記テストがあった。(64)
63. [C ア・百人一首] 百人一首を全て暗記させられ、1 週間に 1 回くらい小テストがあったことと定期試験にも出題されたこと。全員がある程度覚えてきたら学年と全学年で百人一首大会を体育館で開いたこと。(42)
64. [C ア・枕草子] 音読を一人ずつしていた。登場人物の心情や行動から自分で考えたことを班などで発表しあいをした。

- 春はあけぼのを全部暗記するまで帰れま 10 [テレビバラエティ番組の企画。クイズに正解するまで同じ活動をし続けなければならない、という趣旨] 的なことが授業であった。(43)
65. [Cア・鴻門の会] その授業は漢文で鴻門の会を取り扱いました。[資料3の記入内容に基づき分類] (65) (66) (89)
66. [C・ア] 漢文や古文を各グループに別れて、内容理解を深めるために音読を行いました。その音読も読み方の工夫を各グループで試行錯誤し取り組んだ記憶があります。(33)
67. [Cイ・百人一首] 百人一首を学んだ時に、先生が1人に1セット百人一首の簡易かるたを配布してくれて、毎授業の初めにクラスでミニゲームをしたこと。(90)
68. [Cウ・竹取物語] 竹取物語を紙芝居で作って各グループで紹介しあった。
69. [Cウ] 古文の授業で登場人物がどういう心情なのかを考えて、それを4コマ漫画にする。
70. [Cオ・源氏物語] 先生が光源氏のことを「マザコン、ロリコン、拉致、監禁」と、現代の物差しで捉えた表現をしていたこと。(78)
71. [Cオ・源氏物語] 源氏物語の桐壺のところを自分たちで訳し発表したこと。(79)
72. [Cオ] 事前に予習(単語の意味を調べる、文法を調べる)をしてきて、授業の時に先生と一緒に読み進めていく。先生が当てたところで単語の意味や文法を当てられた人が答える。(44) (67)
73. [Cオ] 古典の授業で、文法や活用、単語の意味や日本語訳などを黒板に生徒自身で書いていき、その答え合わせを全体とする。(68)
74. [Cオカ・源氏物語] 源氏物語を学習した。光の君と周りの女たちとの関係を深く知りながら学習していったので面白かった。途中に出る歌なども興味深かった。(12) (96)
75. [Dウ] 戦争の話で自分が調べたこと聞いた事をみんなの前で発表しないといけなかった。(91)
76. [E] 教科書に載っている写真から1枚選んで、その写真から物語を作る。
77. [E] 担任が国語の授業ができないときに校長が代わりにきて詩を作る活動をした。(69)
78. [E] 手紙の書き方を習ってそれをういて手紙を親に書いた。(70)
79. [E] 自分でひとつの物語をかいた。(19)
80. [E] それぞれが自分で絵本を作ってクラスの前で見せ合った。(45)
81. [E] クラス全員で俳句や短歌をテーマは自由で作成した授業。(31)
82. [E] 自分の意見文を書いて、クラスの前で発表した。その発表を聞いて、一人一人生徒が点数をつけた。(71)
83. [E] 1人ずつ俳句を考えて、クラスみんなで発表し合う俳句大会をした。(46)
84. [E] 宿題で書いた作文が学年代表に選ばれて、弁論大会に出ることになり、当時の国語の先生と昼休みや放課後にたくさん練習をした。(97)
85. [E] 季節の俳句が何個かあって、その中から好きな俳句を選んで物語を作る。(72)
86. [F] 登校するから〔登校する方法をどちらか一つ選ぶなら、か〕徒歩か自転車かのディベートをした。最初の意見を2分ちょうどで言えた。相手の意見に勝てるように頑張った。(47)
87. [F] 「小学校でシャーペンを使っていいか?ダメか?」「中学校に制服は必要か?不要か?」のようなテーマについて、グループで別れてディベートをした授業。(29)
88. [G] 漢字テストの解説がいつもいろんな情報を追加でしてくれて面白かった。(98) (99)
89. [G] 古典のさまざまな活用方法を全力で暗記したこと。(48)
90. [G] 故事成語を勉強するときに、隣の席の人に説明する授業。説明の方法は選べて、私は漫画で説明したことを覚えている。(49) (73)
91. [G] 漢字の音読み訓読みの授業で、「生」の読み方の例文を出すときに生ビールが大好きな先生が「生ビール」を例として提示して、みんなで笑った思い出がある。(50) (51)
92. [G] 古典の授業の冒頭で、毎回ちびまる子ちゃんの替え歌をうたっていた。古典の活用形の替え歌で、何度も歌っているうちに活用形をほぼ暗記できるようになった。問題を解いているときも、心の中で歌って解くことが多かった。(74)
93. [G] 文法の授業(形容動詞、形容詞の接続)でみんなで声を出しながら覚えた。先生がリズム良く楽しく教えてくれたのでみんな楽しみながらできて、覚えることができた。「かろ、かつくう、い、い、けれ、〇、形容詞」のリズムで、先生が「う」を強調していて面白かった。(52)
94. [H] 教室で小さな劇をした?
95. [H] みんなでグループを作って発表した。(53)
96. [H] 特定の授業の話ではないのですが、私が高校生の時の国語の先生は、かなり厳しい先生で、授業中に当てられた時に間違った解答をすると、それなりの叱責を受けたりしていたのですが、現代文の小説の時だけは生徒の自由な発想や感性を尊重してくれる方で、その態度の変化があまりにもあからさまだったので、不思議に思っていた事を覚えています。(81) (92)
97. [H] 中学3年生の国語の時間に、班ごとに担当を決めてみんなに向けて授業をするという取り組みをした。(59)

*

【資料3】その国語科授業のことを覚えている理由

<凡例> (一連番号) 分類記号 記載内容 対応する資料2の一連番号

・原則として回答者の表記のママ。ただし、[] 内と分類記号は竜田による。

- (1) I ① 作者の名前が印象的だった。6
- (2) I ① 有名な作家である中島敦の作品であったため授業にもともと積極的に受けていたからだと考える。45
- (3) I ② 多分「馬頭琴」という言葉の響きがかっこいいな、と若かりし頃の自分が思ったから。44

- (4) I ③ 今までの内容と異なり心情を把握するのが難しかったから。39
- (5) I ③ 物語の内容が面白かったから。42
- (6) I ③ おもしろかったから。49
- (7) I ③ 話がとても面白く、漢文が主体で書かれてあったから。52
- (8) I ③ とても感動した覚えがあります。55
- (9) I ③ 内容がとても面白かったから。56
- (10) I ③ 話の内容が衝撃的だったから。57
- (11) I ④ 小さな魚が力を合わせて大きな魚に立ち向かう姿に驚いた。6
- (12) I ④ 私はやっぱり紫の上が好きです！73
- (13) I ⑤ 絵がきれい。6
- (14) I ⑦ どこからが人殺しになるのかを考えさせられたから印象に残っている。50
- (15) I ⑦ クラムボンという言葉もだが作品全体でなにかいいのかわからなかったから。51
- (16) II ⑧ 授業参観で劇をしたが、そのために授業以外に小道具を作るなどの活動をしたから。8
- (17) II ⑧ 実際にグループで劇をした。22
- (18) II ⑧ 何かを作るという作業も加わったから。34
- (19) II ⑧ 自分で1からストーリーを考えたので印象に残っていると思う。79
- (20) II ⑨ 自分たちが中心となって、考えながら活動したから。9
- (21) II ⑨ 自分たちで役と劇をする部分を選んでグループで協力して取り組んだから。11
- (22) II ⑨ 校庭に出て実際に影送りをしたから。16
- (23) II ⑨ 物語で読んだことを実際に自分で経験したから。18
- (24) II ⑨ 最初、読むだけではなかなかかけおくりがどういうことなのか理解できていなかったが、実際にやってみると、かけおくりができて驚いたから。19
- (25) II ⑨ 本の中に書かれていたことを自分もできたから。20
- (26) II ⑨ 登場人物の心情を考えながら、役に入りきって劇を行ったから。23
- (27) II ⑨ 自分たちで登場人物のお面を作ったり実際に劇を行ったりしたからだと思う。25
- (28) II ⑨ ただの座学ではなく、自分たちが主体となった授業展開だったからだと思います。28
- (29) II ⑨ 自分で理論を組み立てて、発表したから。87
- (30) II ⑩ 普段は見えないようなクラスメイトの一面も見れたような気がしてわくわくしたから。32
- (31) II ⑩ 普段普通に仲の良かった友人が良い短歌を作っていたから。81
- (32) II ⑪ グループの人と色々な意見を出して続きを考えるのが楽しかったからです。33
- (33) II ⑪ 各グループで意見を出し合い古文の意味を理解したり、どんな感情を込めているのか考えたからだと思います。65
- (34) II ⑫ 面白かったから。7
- (35) II ⑫ 楽しかったから。13
- (36) II ⑫ 授業で登場人物の気持ちやセリフを友達と話し合っただけで劇の準備をしたことが楽しくて印象に残っているから。21
- (37) II ⑫ 少し理解しにくい不思議な話だったけど、リーフレットを作って人に説明するのが楽しかったからだと思います。29
- (38) II ⑫ いくつもの伏線が、次々に明らかになっていくのが衝撃的だったから。38
- (39) II ⑫ 大好きと言葉にするのは中々恥ずかしく、相手に伝えることができないが、伝えずにその人が居なくなったらとても後悔するだろうと思った。43
- (40) II ⑫ だから絶対に伝えた方がいいということが心に響いたから。43
- (41) II ⑫ その段落が何を一番言いたいのかを理解して題名をつけなければならぬ大変だったから。59
- (42) II ⑫ とても楽しく取り組めたから。62
- (43) II ⑫ 楽しかったから。63
- (44) II ⑫ とても緊張感があって、答えられないといけない雰囲気があったから。71
- (45) II ⑫ 自分の作った絵本を読んで友達が感想を書いてくれてそれを読むのが面白かったし、友達が作ったものを読んで楽しんでた記憶があるから。80
- (46) II ⑫ みんな楽しく発表していて、自分もすごく楽しかった記憶があるから。83
- (47) II ⑫ 準備をしっかりと行えたと、ディベートも自体もとても楽しかったから。86
- (48) II ⑫ とても大変だったため。89
- (49) II ⑫ 楽しかったから。90
- (50) II ⑫ 楽しかったから。91
- (51) II ⑫ みんなで笑ったから。91
- (52) II ⑫ 私たちが興味を持つようなリズムだったこと。93
- (53) II ⑫ 楽しかったから。95
- (54) II ⑬ 普段国語は教室の中で授業を受けるだけだったので、グラウンドに出て何かするのが新鮮だったから。14
- (55) II ⑬ 実際に外に出て影送りをして今までに体験したことないことをしたから。27
- (56) II ⑬ 国語の授業で絵を描く機会はあまり見られないから。31

- (57) II ⑬ 国語の授業で裁判はしないから。36
- (58) II ⑬ 国語の授業では文章を読んで登場人物の気持ちを考えることが多かったので裁判は新鮮だった。36
- (59) II ⑬ 自分で授業を進めることが初めてだったのでとても印象に残っているのだと思う。97
- (60) II ⑭ 家で音読の宿題をたくさんしたから。4
- (61) II ⑭ 何度も音読をしたので覚えていたと思う。6
- (62) II ⑭ 何回も教科書を読んでいたのでからだと思います。10
- (63) II ⑭ オペレッタの練習を沢山したし、楽しかったから。12
- (64) II ⑭ 文が長くて覚えるのが大変だったので、たくさん練習したから。61
- (65) II ⑭ 毎回の授業で書き下し文の音読をしないと行けなかったので合計で100回は読んだはず。64
- (66) III ⑮ そのおかげで本文を覚えてしまい、満点が取れました。64
- (67) III ⑮ その分、力もついた。71
- (68) III ⑮ このおかげで、正しい活用法や古典単語を覚えることが出来たから。72
- (69) III ⑮ 地元の新聞に作品が載った気がする。77
- (70) III ⑮ 国語が日用的に〔日常的に、か〕使えると感じたから。78
- (71) III ⑮ 自分が発表というのが苦手だったのでたくさん練習したから。82
- (72) III ⑮ 先生から最優秀賞をもらったから。85
- (73) III ⑮ その後に漫画を持って帰って、親に褒められたから。90
- (74) III ⑮ ちびまる子ちゃんの替え歌のおかげで古典の点数が少し伸びたから。92
- (75) III ⑯ 実際に体を使って実践してみて、ちいちゃん達が戦争の事を考えずに過ごせる遊び方というものを学んだからだと思う。
- (76) III ⑯ 頭の中でしか考えていなかったちいちゃんの気持ちや、ちいちゃんの見ていたものが実際にやってみることで「この景色を見てたんだな」と感じる事が出来たから。17
- (77) III ⑯ がまくんの手紙を待つ時間が一番つらいという気持ちにとっても共感したし、そんな親友を見て手紙を書いてあげるかえるくんのような優しい人になりたいと思ったからだと思います。46
- (78) III ⑯ 物語の作られた時代では、まだ一般的に見られていたことの現代での捉えられかたのギャップが面白かったから。69
- (79) III ⑯ 答えの捉え方以外の捉え方ができるのだなということが知れた。70
- (80) III ⑯ 主人公が当時の自分と似ているところが多く、自己を見直すきっかけになったから。74
- (81) III ⑯ おそらく何かしらの理由があるのだろうと、ずっと考えていたからです。96
- (82) III ⑰ 自分自身楽しかった覚えがあるし、実習〔大学1年次に取り組んだ授業観察中心の教育実習のこと〕の時にその授業をちょうどして思い出したから。1
- (83) III ⑰ 自分たちの班が描いた絵を今でも覚えているから。30
- (84) III ⑰ 自分自身が小説に興味があり読むことが楽しかったから。32
- (85) III ⑰ また創作活動にも興味があったのでその活動ができたのが楽しかった。32
- (86) III ⑰ 「試験のため」という事をいったん忘れて本文を読んだとき、高校日本史では扱わない平安時代の庶民の歴史(安丸良夫『日本の近代化と民衆思想』などの著書がある歴史学者)の言葉を借りるなら民衆史?)について調べたいと感じるきっかけになったから。40
- (87) III ⑰ 実際に私も作っていたから。60
- (88) III ⑰ そして美味しかったから。60
- (89) III ⑰ 鴻門の会のドラマも一緒に見たので文章と一緒に映像も頭に残っているので、はっきり覚えています。64
- (90) III ⑰ 楽しかったし、もっと百人一首を覚えて札を取れるようになりたいと思って、自分でも勉強するようになったから。66
- (91) III ⑰ 家族から聞いた話がとても新鮮でこの授業がなかったら曾祖父と戦争の話話す機会がなかったと思うから。75
- (92) III ⑰ 小説は小論文や古文漢文と違い、明らかな正解の解釈の仕方が無かったりするから、国語を教える教師として、大学受験の為の力だけではなく、文学を自由に楽しむための力も身につけさせることを大切にしていたのだろうか、などと考察を繰り返していたからです。96
- (93) IV 〔先生が、〕面白く、かつ分かりやすくやってくれたから。24
- (94) IV 先生の講義の仕方が上手だったからだと思います。41
- (95) IV 先生が変わった人で、インパクト強すぎて忘れられません!58
- (96) IV 先生があさきゆめみしという漫画を勧めてくださったので背景や情景が思い浮かびやすかった。73
- (97) IV 自分の言葉で人に伝えるということをその国語の先生が一生懸命教えてくれたから。84
- (98) IV その先生の漢字愛がすごく伝わったから。88
- (99) IV 〔先生が〕楽しそうに話していて、興味のない自分にも響いたから。88
- (100) V 文字ではなく絵の方が記憶に残りやすいから。31

*

4. 1 分析1：なにを覚えているのか

A	文学的文章の授業	59	(60.8%/57.3%/73.8%)
B	説明的文章の授業	2	(2.1%/4.9%/3.7%)
C	古典の授業	13	(13.4%/14.6%/3.7%)
D	文章教材の授業（ジャンルの特定が困難）	1	(1.0%/9.7%/7.5%)
E	作文・創作の授業	10	(10.3%/2.9%/3.7%)
F	話し言葉（話す・聞く）の授業	2	(2.1%/2.9%/5.6%)
G	漢字・語句・文法・書写の授業	6	(6.2%/6.8%/0.9%)
H	その他	4	(4.1%/1.0%/0.9%)

まず、「その授業（学習）について覚えていることは、どんなことですか。〔以下略〕」に対する回答（報告された授業の総数=97）を分析した結果を示す（詳細は資料2を参

照）。分類項目は2014年版に基づいて上のA～Hとした^v。パーセンテージは順に23年度/14年度/13年度の割合を示す。

A～Dはテキストを読む授業（75例、77.3%/86.4%/88.7%）であり、E～Gは読むこと以外を主たる内容とする授業（18例、18.6%/12.6%/10.2%）である。テキスト教材を用いる授業が高い割合を占めているが、過去の調査と比較するとその割合は若干減少している。2014年度の回答ではとくにE作文・創作の授業に関する回答の増加が目立つ。具体的には、写真から物語を作る、詩歌を作る、手紙を書くなどの報告がみられた。

次に、A～Dに分類されたテキストを読む授業を対象に、授業の具体的内容を分析する。分類項目は2014年版に基づき以下のア～キとした（総数75。詳細は資料2を参照）^v。

ア	音読・朗読・暗唱	14	(18.7%/25.2%/20.0%)	テキストを声に出して読む活動。
イ	劇化・動作化	19	(25.3%/18.7%/14.8%)	テキストのを劇や動作によって表現する活動。ゲームの要素をもつ学習も含めた。
ウ	書きもの制作	11	(14.7%/8.4%/8.7%)	テキストをもとに紙芝居、本、絵、新聞等を書く活動。調べ学習の発表も含めた。
エ	議論・討論	1	(1.3%/2.8%/2.6%)	テキストに基づいたディベートや議論の活動。模擬裁判を含む。グループワークなどの小規模の話し合いは含まない。
オ	読解	23	(30.7%/25.2%/34.8%)	教師の説明をもとにした読み深め・解釈、意見や感想の発表、小規模の話し合い、古典テキストの現代語訳、語句の意味や作家作品の調べ学習。教師の話も含めた。
カ	教材本文の内容価値	15	(20.0%/6.5%/9.6%)	授業で学んだことを文章内容の面から記載した回答。
キ	学習活動に関する記載なし	6	(8.0%/13.1%/9.6%)	

割合は例年通りの傾向が見られるが、2023年版では、イの劇化・動作化と、カの教材本文の内容価値を中心とした記述が、2014年度までの傾向に比べて、高い割合を示した。

4. 2 分析1：なぜ覚えているのか

I	文章教材の価値・魅力	15	(15.0%/16.4%/42.4%)
II	学習活動の内容・特色	50	(50.0%/43.3%/31.2%)
III	自分自身の関与・変容	27	(27.0%/26.1%/19.2%)
IV	国語教師の個性・言動	7	(7.0%/9.7%/3.2%)
V	偶発的事象・分類不能	1	(1.0%/4.5%/4.0%)

授業を覚えている理由を、回答者はどのように考えているのか。「その授業（学習）のことを覚えているのはなぜだと思いますか」への回答を一文単位

で分析した（全100文）^{vi}。分類項目は2014年版とほぼ同様であるが、分類根拠をより明確化するため、①～⑰の項目の一部に追記を行った（記述内容の詳細は資料3を参照）。

*

I文章教材の価値・魅力は、教材文を読んだ感動や印象を理由に挙げたもので、その焦点は①～⑦に分けられる。

I 文章教材の価値・魅力	回答例（資料3より）
①作品の外部評価 …文学史的評価や認知度について	(2) 有名な作家である中島敦の作品であったため授業にもともと積極的に受けていたからだと考える。
②表層・修辞 …文章中の表現について	(3) 多分「馬頭琴」という言葉の響きがかっこいいな、と若かりし頃の自分が思ったから。
③概括的印象 …読後や学習後の感想	(5) 物語の内容が面白かったから。
④作中人物 …作中人物について	(11) 小さな魚が力を合わせて大きな魚に立ち向かう姿に驚いた。
⑤作品世界 …作品の世界観や描写、挿絵について	(13) 絵がきれい。
⑥物語展開 …文章構成や流れについて	(2014 年度調査：17) 個人的に、心を入れ替えたごんが兵十に撃ち殺されてしまう最後の場面がとても印象的だったから。
⑦作品への没入 …没入して読んだり思考したりした経験	(14) どこからが人殺しになるのかを考えさせられたから印象に残っている。

*

II 学習活動の特徴・特色は、授業で取り組んだ学習活動の性質や特質を理由とするもので、具体的には⑧～⑭の各要素がある。⑧～⑪と⑭は学習活動の特徴や内容を述べることを中心とし、⑫⑬は学習活動の所感を中心とする。⑪の項目は、テキストを読んで書いたり話し合ったりする、理解と表現の関連学習の報告である。

II 学習活動の特徴・特色	回答例（資料3より）
⑧学習活動の内容説明 …授業で行った活動自体の説明的記述	(16) 授業参観で劇をしたが、そのために授業以外に小道具を作るなどの活動をしたから。
⑨主体的・実際の・体験的活動 …活動の主体的・实际的・体験的性格	(20) 自分たちが中心となって、考えながら活動したから。
⑩他者との意見交流、他者理解、他者の発見 …議論や話し合う活動そのものを挙げるもの	(30) 普段は見えないようなクラスメイトの一面も見れたような気がしてわくわくしたから。
⑪テキストの解釈とその表現・交流 …理解と表現の関連学習	(33) グループの人と色々な意見を出して続きを考えるのが楽しかったからです。
⑫活動の印象や感想 …学習活動に取り組んだ印象や感想	(36) いくつもの伏線が、次々に明らかになっていくのが衝撃的だったから。
⑬活動内容の新鮮さ …活動の珍しさ・新鮮さ・普段とのちがいがい	(54) 自分で授業を進めることが初めてだったのでとても印象に残っているのだと思う。
⑭豊富な学習時間 …学習時間の量的な多さ	(60) 家での音読の宿題をたくさんしたから。

*

III 自分自身の関与・変容は、学習活動に取り組んだ回答者自身のことを述べたもので、その焦点は⑮～⑰の項目に分けられる。IIIに分類される回答は、国語科授業が自己形成において意味をもったり、言語生活のなかで確かな位置をもったりしたことを述べている。とくに⑯⑰の中には、学んだことが深い記憶となり、他の場面に応用されていることを示す記述も多い。その意味で、ここに分類される回答は、感情と強く結びついていることを推測させるものとなっている。

III 自分自身の関与・変容	回答例（資料3より）
⑮学習の苦労・達成感 …取り組みの苦労・成就感・有能感・成長感	(71) 自分が発表というのが苦手たくさん練習したから。
⑯学びの内面化・内面の学び化 …興味・関心・認識・思考の変化	(75) 実際に体を使って実践してみても、ちいちゃん達が戦争の事を考えずに過ごせる遊び方というものを学んだからだと思う。
⑰学びの生活化・生活の学び化 …言語生活との結びつき、興味関心との関連	(90) 楽しかったし、もっと百人一首を覚えて札を取れるようになりたいと思って、自分でも勉強するようになったから。

*

IV国語教師の個性・言動は、授業を担当した国語教師の印象やふるまいを理由に挙げたもの、いわば「先生」への言及である。(99) [先生が] 楽しそうに話していて、興味のない自分にも響いたから。) など、授業中の話の印象を肯定的に捉えたものが多い。IVの回答は、すべてではないが、自らの感情を伴うかたちで教室での指導を行っている教師の姿として捉え直すこともできるだろう。

*

ここまでのI～IVを端的にまとめれば、国語科授業が記憶に残っている理由を、Iテキストに、II学習活動に、III学習者に、IV教師に、それぞれ求めたものといえる。以上の分析に関し、項目間に重複する内容が見られるなど、検討すべき部分があることを付記しておきたい。最後に、I～IVに当たらないと判断されたものを、**V偶発的事象・分類不能**とした。

4. 3 分析2：国語学習の記憶における感情のありか

表2は、感情の働きを授業にいかして教える教師の姿を探るために、教師のふるまいに具体的に言及した回答を、資料2と資料3から抽出したリストである。教師に言及されている回答であっても、教師自身の感情との関連づけが見られない回答は取り上げなかった(例えば、「先生の話が面白かった」「先生が……を準備してくれた」といった回答)。計12項目が挙げられる。長く続く学びの記憶をつくり出す教師は、当然、ここに報告された教師だけではないが、少なくともこのリストからは、その教師自身が独創的・個性的な方法で教えている授業の様子が浮かび上がってくる。なお、96と(92)は、同じ回答者による、同じ教師について述べた回答である。

【表2】国語学習の記憶にみる、感情の働きを授業にいかして教える教師の姿

【資料2より】

54. [A キ・お手紙] かえるが主人公の単元があって、その単元のテストの名前の欄に「かえる」と書いた友達がいる、そのことを後日先生が「○○さんは感情移入して名前にかえると書いていましたね!」とみんなの前で楽しそうに話していたので、自分もその後のテストで名前の欄に「かえる」とかいたら、そのまた後日、テストの回答用紙を見た親に「親が付けた大事な名前で遊ぶな」とこっぴどく叱られた。
70. [C オ・源氏物語] 先生が光源氏のことを「マザコン、ロリコン、拉致、監禁」と、現代の物差しで捉えた表現をしていたこと。
91. [G] 漢字の音読み訓読みの授業で、「生」の読み方の例文を出すときに生ビールが大好きな先生が「生ビール」を例として提示して、みんなで笑った思い出がある。
93. [G] 文法の授業(形容動詞、形容詞の接続)でみんなで声を出しながら覚えた。先生がリズム良く楽しく教えてくれたのでみんな楽しみながらできて、覚えることができた。「かろ、かつくう、い、い、けれ、〇、形容詞」のリズムで、先生が「う」を強調していて面白かった。
96. [H] 特定の授業の話ではないのですが、私が高校生の時の国語の先生は、かなり厳しい先生で、授業中に当てられた時に間違った解答をすると、それなりの叱責を受けたりしていたのですが、現代文の小説の時だけは生徒の自由な発想や感性を尊重してくれる方で、その態度の変化があまりにもあからさまだったので、不思議に思っていた事を覚えています。

【資料3より】

- (92) III ⑩ 小説は小論文や古文漢文と違い、明らかな正解の解釈の仕方が無かったりするから、国語を教える教師として、大学受験の為の力だけではなく、文学を自由に楽しむための力も身につけさせることを大切にしていたのだろうか、などと考察を繰り返していたからです。
- (93) IV [先生が、] 面白く、かつ分かりやすくやってくれたから。
- (94) IV 先生の講義の仕方が上手だったからだと思います。
- (95) IV 先生が変わった人で、インパクト強すぎて忘れられません!
- (97) IV 自分の言葉で人に伝えるということをその国語の先生が一生懸命教えてくれたから。
- (98) IV その先生の漢字愛がすごく伝わったから。
- (99) IV [先生が] 楽しそうに話していて、興味のない自分にも響いたから。

*

表3は、学びと感情が深いレベルで関連づけられている回答を資料2と資料3から抽出し、まとめたものである。長く記憶に残っている学習経験であるから、アンケートの回答はすべて、言及されていなくても、感情と結びついているともいえよう。ここでは、3で検討した内容と比較検討することを念頭に、(ア) 自信をもつ、(イ) 自分がいなく感情に向き合い、味わい、表出する、(ウ) 共感する、(エ) 好奇心をもつ、そして(オ) 挑戦・応用しようとする態度が読み取れる項目を抽出した^{vii}。計19項目が見出された(同じ回答者による回答を3件含む。43-(39)-(40), 46-(77), (81)-(92))。「楽しかった」「面白かった」「印象に残った」などの活動や作品に対する感想を述べたものは、結果的に取り上げられていない。また、(ア)に該当する記載は見られなかった。「自信」の意味を一般的に捉えれば、(67)Ⅲ ⑮ その分、力もついた)等の回答を含められそうではあるが、キーン(2014)において「自信」は、「作品／概念について他の人たちと話し合ったり、他の人の考え／知識に貢献する能力と傾向」と説明されている(p.384)。つまり、ここでの「自信」は、クラスメイトなどの他者と関わる中で育まれる感情として捉えられる。

【表3】国語学習の記憶にみる、学びと感情の関連づけ

項目	【資料2より】	【資料3より】
(ア) 自信	—	—
(イ) 感情	43. [A オカ・ずうっと、ずっと、大すきだよ] ずーっとずっとだいすきだよの物語の授業で「ずーっとずっとだいすきだよ」という言葉を誰に伝えたいかを話しあった。中々恥ずかしくて言いくいけど、大事なことは言葉にして伝えなければいけないとまとめて先生が話した。 48. [A カ・少年の日の思い出] 少年が最後蝶を潰したシーンが印象的で、なかなかそれについて共感できなかったことをおぼえている。 53. [A カ・山月記] 山月記を読んで、下手なプライドを持たずに切磋琢磨できる仲間を作ることが大切だと考えたことを覚えています。	(14) I ⑦ どこからが人殺しになるのかを考えさせられたから印象に残っている。 (15) I ⑦ クラムボンという言葉もだが作品全体でなにかいいのかわからなかったから。 (39) II ⑫ 大好きと言葉にするのは中々恥ずかしく、相手に伝えることができないが、伝えずにその人が居なくなったらとても後悔するだろうと思った。 (40) II ⑫ だから絶対に伝えた方がいいということが心に響いたから。 (81) III ⑯ おそらく何かしらの理由があるのだろうと、ずっと考えていたからです。 (92) III ⑰ 小説は小論文や古文漢文と違い、明らかな正解の解釈の仕方が無かったりするから、国語を教える教師として、大学受験の為の力だけではなく、文学を自由に楽しむための力も身につけさせることを大切にしていたのだろうか、などと考察を繰り返していたからです。
(ウ) 共感	46. [A カ・お手紙] 「ふたりはともだち」という物語がとても印象に残っています。がまくんが手紙をもらえなくて悲しんでいるのを見たかえるくんががまくんに手紙を書いてあげるところが優しいと感じました。 47. [A カ・ごんぎつね] ごんぎつねの最後が切なくて小学生ながら、うるうるした思い出がある。	(76) III ⑯ 頭の中でしか考えていなかったちいちゃんの気持ちや、ちいちゃんの見ていたものが実際にやってみることで「この景色を見てたんだな」と感じる事が出来たから。 (77) III ⑯ がまくんの手紙を待つ時間が一番つらいという気持ちにとっても共感したし、そんな親友を見て手紙を書いてあげるかえるくんのような優しい人になりたいと思ったからだと思います。 (80) III ⑯ 主人公が当時の自分と似ているところが多く、自己を見直すきっかけになったから。
(エ) 好奇心	41. [A オ・羅生門] 羅生門の授業なのですが、最初見た時長くて難しいと感じていたけれど、先生の話が面白かったから授業が全部終わった後、自分で本を買って読むくらいハマりました。	(86) III ⑰ 「試験のため」という事をいったん忘れて本文を読んだとき、高校日本史では扱わない平安時代の庶民の歴史(安丸良夫『日本の近代化と民衆思想』などの著書がある歴史学者)の言葉を借りるなら民衆史?)について調べたいと感じるきっかけになったから。 (90) III ⑰ 楽しかったし、もっと百人一首を覚えて札を取れるようになりたいと思って、自分でも勉強するようになったから。
(オ) 挑戦・応用	—	(70) III ⑮ 国語が日用的に〔日常的に、か〕使えろと感じたから。 (71) III ⑮ 自分が発表というのが苦手でたくさん練習したから。

5 考察

5. 1 国語学習の記憶と感情の結びつき

本研究の目的は、国語学習の記憶は感情とどのように結びついているのか、国語学習の記憶をつくり出す教師にはどのような特性がみられるかを明らかにすることであった。3節におけるモーガン先生とその教室の検討、および4節における国語学習の記憶の調査分析を総合して、これらの問いについて考察していきたい。

まず、国語学習の記憶は感情とどのように結びついているのか。国語科授業の記憶に結びついている感情の種類が多様であることは言うまでもないが、表3と、モーガン先生の授業の成果から導かれる(ア)～(オ)の感情の要素を照らし合わせると、次のことがいえるであろう。

1点目に、学習者の関与や変容を引き出す国語学習は、感情面の経験を伴うことが多い。資料3のⅢに分類される、国語科授業における自分自身の関与や変容について記述したものは、計27項目(27%)であった。このうち、表3には三分の一にあたる9項目がリストされている。このことから、国語科授業における学習者の関与や変容は、感情の要素との関連性が高いといえる。竜田(2016)において、Ⅲに分類される国語学習の記憶は、学習者本人の自己形成や言語生活に確かな位置づけをもつ(＝国語学習の機縁となる)ことが多いことが明らかになっている。これを踏まえると、感情に向き合う、共感する、好奇心をもつ、挑戦・応用しようとするといった感情の経験をもたらす国語学習は、生涯にわたって学び続けようとする原動力を育む可能性を秘めているといえよう。

2点目に、学びと感情の結びつきの形成において、文学的文章とその授業が大きな役割を果たしている。表3の左欄に掲げた計6項目は、すべて文学的文章の授業(A)であり、教材の読み深めや内容価値に迫る学習(オ・カ)が行われている。右欄の項目においても文学的文章の授業を踏まえた記述が多くみられるとともに、その内容は教材を要因とする回答(I)だけでなく、学習活動(Ⅱ)や自己の変容(Ⅲ)を要因とする回答もみられる。このことから、文学的文章教材を取り上げるだけでなく、その教材でどのような授業を行い、教材本文の内容価値にどのように迫っていくかが、学習経験の記憶の形成に大きく関わっているといえるだろう。

国語科授業を通して認知面の能力(知識・技能、思考力・判断力・表現力)を育成することはもちろん重要である。しかし、国語学習を通して学習者の感情を引き出すという指針をもって授業を行うことも、学習者の自己形成や学ぶ力の育成を図るうえで重要であると考えられる。その指針の一つとして、(ア)～(オ)の感情の要素は意義があると考えられる。

5. 2 国語学習の記憶をつくり出す教師

次に、国語学習の記憶をつくり出す教師にはどのような特性がみられるのか、表2とモーガン先生の教師像(あ)～(え)を照らし合わせて検討していきたい。

表2の12項目の中に、(あ)しつこい教師、(い)正直な教師、(う)好奇心旺盛な教師、(え)公私混合する教師に該当する回答を見つけることは、厳密な意味ではむずかしい。その原因の一つは、表2に示された教師の個性的な姿が、感情面の発露としてよりも、独創的な教え方の発揮によって実現されていると捉えられているためである。本アンケート調査の主眼が、教師像の報告よりも、記憶に残る国語科授業の内容報告にあることも影響していると推察される。しかし、このような調査方法の限界を踏まえても、感情の働きをいかして教える教師の報告は限られていると言わざるを得ない。国語学習の記憶をつくり出す教師は、本調査結果においては独創的・個性的な教え方をする教師として特徴づけることができる。これに対して、感情を味方につけて教える教師は、現在の国語科教育現場

においては、貴重な存在といえるかもしれない。

その中にあって、大好きな「生ビール」のことを教室で話題にしながら漢字の読み書きを教える事例(91)からは、(え)公私混合する教師の姿が見出される。また、漢字テストの解説の中でいろいろな情報を熱心に話し「漢字愛が伝わってきた」とする事例(98)は、(う)好奇心旺盛な教師として捉えることができる。さらに、普段の授業の「厳しさ」と小説の授業における「優しさ」のギャップに不思議な印象を抱かせる事例(96)は、(あ)しつこい教師と(い)正直な教師の要素を含んでいるといえよう。学習者の誤答をゆるがせにしない普段の態度は一種の「しつこさ」であり、文学の授業で自分の感じ方に忠実であることを教える態度は一種の「正直さ」であろう。そして、客観的にみれば「あからさまな態度の変化」を、生徒に隠すことなく、自分のスタイルとして堅持する姿勢も、「正直さ」と捉えることができるのではないか。この教師の授業の成果は表3(81)(92)にもリストされている。数は少ないが、感情をいかして国語を教える教師たちによって、学習者に長く残る学びの記憶が育まれていることも確かだといえそうである。

6 結語

キーン(2014)がモーガン先生の授業を通して意義づけている、教師と子どもの感情に彩られた授業をつくるには、もちろん、魅力的で個性的な教師の存在が不可欠である。しかし、それだけでなく、教師固有の教え方のスタイルを称え合う文化も大切なのではないか。キーンは、学校現場において、感情の働きが十分にいかされていない状況を、次のように分析している。

教師は子どもたちが自分の教えたことを覚えもしないし、応用もしないとよく嘆きますが、そういうときは、私たちが指導のアプローチを当たり障りのないものにして、日々のやりとりから、子どもたちが学習するさまざまな概念をつなぎとめることのできる多くの感情的な要素を取り除いてしまっているのではないかと案じます。(キーン, 2014, p.343)

つまり、「指導のアプローチを当たり障りのないもの」にしたり、子どもたちとの「日々のやりとり」を平板なものにしたりしているのではないかとキーンは懸念する。これらは、具体的に学校の授業のどのような状況を意味しているのだろうか。いま深く立ち入ることはできないが、一つの仮説として、教育委員会・教育センター・学校レベルで策定される「授業の内容・方法に関する様々なスタンダード」の影響を挙げておきたい。スタンダード化にはメリットもデメリットもある(亙理, 2021)。現代的な教育状況において、生徒・学生たちが、学びを感情に結びつけて掘り下げていくモーガン先生のような教師や、学習経験を何度も思い出してさらに学び続けようという情熱を育む授業に出会える機会をつくることは、将来の教員養成を考えるうえでますます重要になるであろう。

本研究の特色と限界は、モーガン先生とその教室を考察したキーン(2014)に基づいて、学習を通して育まれる感情を捉えてきた点にある。感情や社会性をはじめとした情意面の資質・能力の育成については研究も多い。その知見や、他の実践者の取組を手がかりに、「感情」の捉え直しを行い、国語学習の記憶と感情の関連をさらに探究することを今後の課題としたい。

【注】

- i 元内閣府男女共同参画局政策企画調査官の船木成記(2012.10.10)が、ワーク・ライフ・バランスを促進する文脈において提唱した概念。「公私【混】合」は、公私混同とは異なり、仕事とプライ

ベートを「意図して混ぜる」ことだと説明されている。

- ii キーン (2014) で描かれるモーガン先生は、小学4年生を担当している。
- iii 授業が行われた時期と地域の把握に役立てるため、質問事項に5と6の項目を新規に追加した。
- iv 調査における質問のうち、質問1・2・5・6は本稿の分析対象としていない。
- v 調査では「ある一つの授業のことについて」の回答を求めたが、複数の授業を回答するケースも見られた。それらは一つずつ分析した。
- vi 同一の回答者が複数の学習活動に言及している場合は、別々に数えた。例えば、「音読したり、劇をしたりした」という記述は、〈音読・朗読・暗唱〉と〈劇化・動作化〉の両方に分類した。
- vi この分析方法は、山元隆春(1992)における読者反応分析の方法を参考にした。「一文」は、句点と、箇条書きの場合における改行をもって判断した。
- vii 分類にあたっては、キーン (2014) における「表9. 1 理解することで得られる成果」における項目と解説を参照した。モーガン先生の授業の成果に関するキーンの考察は、表9. 1の次の各項目と関連づけて述べられていると判断したためである。
 - (ア) 自信をもつ：「自信」
 - (イ) 自分がいなく感情に向き合い、味わい、表出する：「喜びを味わう」
 - (ウ) 共感する：「共感全般」「登場人物への共感」「舞台設定への共感」「登場人物の葛藤への共感」「作者への共感」
 - (エ) 好奇心をもつ：「強い興味」
 - (オ) 挑戦・応用しようとする：「新たな応用」

【参考引用文献】

- キーン、エリン・オリヴァー [著]、山元隆春・吉田新一郎 [訳] (2014) 『理解するってどういうこと? 「わかる」ための方法と「わかる」ことで得られる宝物』新曜社。
- 竜田徹 (2014) 「学習者の記憶に残る国語科授業—教員養成課程の大学生を対象とした質問紙調査を手がかりに—」『佐賀大國文』42。
- 竜田徹 (2016) 「国語学習の記憶に関する—考察—学習者の記憶に残る国語科授業に関する質問紙調査 2014年版から—」『九州国語教育学会紀要』5。
- 山元隆春 (1992) 「文芸の授業のための学習者研究—読者反応研究の観点から—」『国語科教育』39
- 船木成記 (2012. 10. 10) 「公私混同ではなく、『公私混合』のススメ—ワーク・ライフ・バランス的パラレル・キャリア私論—」<https://www.tokyo-danjo.metro.tokyo.lg.jp/lwb/colum/colum15.html> (2024. 2. 29 確認)
- 亘理陽一 (2021) 「第7章 外国語コミュニケーション」石井英真 [編著] 『流行に踊る日本の教育』東洋館出版社。

【補記】本研究は JSPS 科研費 20K02738 の助成を受けた。

(本学准教授)